

第5回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクール

三重大学教育学部附属中学校 櫻川成大くんに最優秀賞

(財)日本消防協会（徳田正明会長）主催の第5回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクールで、三重大学教育学部附属中学校1年櫻川成大くんの作品が最優秀賞に選ばれ、二月七日、同中学校体育館で表彰式が行われました。表彰式には徳田会長をはじめ、櫻川くんのご両親、学校関係者、消防関係者、津市消防団、同校の1年生百六十名などが出席し、櫻川くんの受賞を盛大にお祝いしました。

徳田会長から表彰状と記念品を贈られた櫻川くんは「受賞のことを聞いた時は、うれしくてヤッターという気持ちが込み上げてきました。これを励みに人に役立つ事を目指し、一生懸命頑張りたいと思います」と力強く感想を語ってくれました。また、作文のモデルとなった櫻川くんの母、政子さんは「表彰式ではたくさんの皆様にお世話をいただき、とても感謝しています」と感謝の意を表されました。

この作文コンクールは、平成13年度から全国の中学生を対象に毎年行われており、今年度は各都道府県から推薦を受け、全国から寄せられた52点の中から審査の結果、櫻川くんの作品が最優秀賞を受賞しました。ここで、最優秀賞に輝いた櫻川くんの作品をご紹介します。

「僕の家消防団員」 櫻川成大



ある日のお昼過ぎの事でした。僕がテレビを見ている時、外からけたたましいサイレンの音が耳に飛び込んできました。「また火事かぁ。」とっていると、急にサイレンの音が止まりました。窓の外を見ると空にまで届きそうな黒い煙がモクモクと出ていました。その煙の臭いは焦げ臭く、今にも僕の家におそってきそうでした。

母は、「成大、布団と洗濯物を家の中に急いでいれてー。」と叫びました。僕は訳も分からず言われたままに、とにかく洗濯物をあわてて家の中に取り込みました。

いつもは、ゆかいな母もこの時ばかりは真剣な顔つきでした。母は急いで作業服に着替え、ヘルメットをかぶり、手袋を着け現場へ出て行きました。

僕は、母のことが心配になり、じゃまにならない場所からこっそり母の姿を見ていました。小柄な母は、ホースを抱え、消防士さんに渡し、消火補助をしていました。隣の家に火が燃え移らないように消火していました。

僕の母は、津市女性消防団員です。消防団員といえば、男の人というイメージが強いと思いますが、津市では平成七年に女性消防団が発足し、母は入団しました。母を見ていて火を消す事だけが消防団の仕事ではない事がよくわかります。

今回の火事でも、見物している人に「危ないですから、近よらないでください。」とか、「煙を吸わないようにしてください。」とか、「飛び火の危険があるので、洗濯物を家の中に取り込んでください。」と呼びかけたり、独り暮らしのおばあちゃんが無事に避難しているか確認していました。鎮火後、母は使ったホースを片付けていました。火事の現場にはたくさんのホースが延びていて片付けるのが、すごく大変そうでした。母は、「消防士さんは、現場の消火活動ですごく疲れるので、後片付けぐらいは手伝わないと。」とよく言っているのが、今回の火事ですごく分かったような気がします。母がここまで出来たのは、日頃の訓練の成果だと思いました。暑い日も寒い日も雨の日も訓練に出掛けて行きます。

今回の火事で僕が思ったことは、消防車が到着する前から消防団の人、地域の人が一つになり、消火活動をしていたので「この町は、安心できるなぁ。」と心から感じました。が、平気でビデオやカメラで火事の現場を撮っている人を見て「自分の家が火事になったらどんな気持ちになるのか。」と腹が立ちました。

僕の祖父は、消防士でした。そして母は消防団員と、僕の身近に、『消防』があり、幼い頃から消防士にあこがれていました。

消防職員、団員は地域の人達と協力しながら町を守ってくれています。

今でも僕は、消防関係の仕事について、たくさんの人の命を救いたいと思っています。